青山同窓会会報

発行所
青山同窓会
新潟市関屋下川原町二
新潟高校内

印刷所　オリオン印刷㈱

九十周年に向って

青山同窓会会長　鍵富清一郎

梅雨が明けて、又暑い夏、総会の季節がやってきました。皆さんお元気で何よりです。

母校も、昭和五十七年には、創立九十周年を迎えます。具体的な計画はこれからですが、九十周年にむかって、同窓会の一層の発展と、力の結集を、皆さんにお願いいたします。

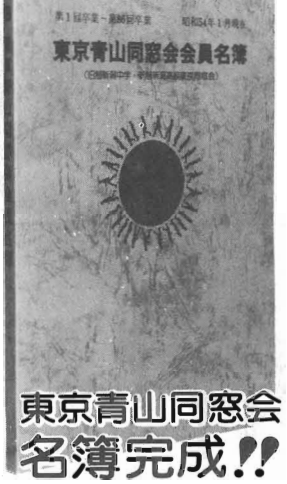
統一地方選に同窓活躍

川上喜八郎氏（45回）新潟市長に再選

今春四月以来の統一地方選に於ては、川上喜八郎氏45回が、新潟市長に再選されたのを始めとして保田町長に**本田富雄氏46回**（四選）県会議員に**加賀田二四夫氏36回**、**轡田勝弥氏50回**、**目黒武尚氏51回**（途中から転校）又、新潟市議会には以下の各氏が当選されました。今後の一層の活躍を期待いたします。

＊新潟市議会議員（卒業順）

33回　倉田勇吉
37回　村山勇一郎
37回　若林忠蔵
40回　平田甚
44回　仁多見一彦
45回　笹川隆三
45回　高野一
46回　大桃十三雄
55回　早福卓
58回　大石一郎



東京青山同窓会
名簿完成!!

昭和44年4月に前回の名簿が作成されてから丁度満十年を経て、新たに東京青山同窓会会員名簿が完成致しました。第1回卒業から第86回卒業までの、昭和54年1月現在の名簿です。昭和52年1月の幹事会において、名簿編集委員に60回金山常吉、64回坂井俊一、65回佐藤武行、68回渡辺泰彦、74回上田久則、82回吉岡浩の諸氏が選ばれ、さらに同年12月からは副幹事長41回田中豊男、同52回斉藤泰五郎が加わり、各学年の学年幹事の協力を経て、完成したものであります。必要な方は左記にお申し込み下されば、お送り致します。

一部、弐千圓也（送料共）

申込先　〒160　東京都新宿区三栄町25、三栄ハウス二〇三号室
四谷法律事務所内
東京青山同窓会事務局

送金先　富士銀行四谷支店
口座番号2441−787649
青山同窓会事務局長渡辺泰彦

《随想》

〝帰巣本能〟

校内幹事60回　上杉雅之

※いつ頃からか数羽のハトが体育館に棲みつき、天井を根城に平和で悠々とした生活を送っている。

平和（？）をおびやかされたのは他でもない新潟高校の生徒達である。集会で端然と坐している生徒の頭を平和の象徴ハトの排泄物が直撃する。クラブ活動の生徒は床に落ちた代物に足をとられて動きも思いきりがよくなることもしばしば。時には上を向いた顔に正確に落ちてくる。たまりかねた体育科の先生方、退治法をあれこれ考えるが、これといった名案もなく、すごすうち最悪のニュースがもたらされた。ハトの排泄物の中には悪性腫ようの原因となる物質があるらしいとのこと。学校側も事態を重視、苦しい予算の中を工面して網を購入、四面に張りめぐらした。この作戦功を奏したか。一時入り込めないでいた平和の使者。平和は知らず知らずに訪れるとか。またいつの間にか入り込んできて平和な生活を送っている仕末。帰巣本能の神秘と、その力強さに感心すると同時に、あきれ果てて天井を見上げるだけの新潟高校体育館での昨今である。何か名案は？　乞う御協力！

※毎年時期が来ると訪れる同窓生がある。教職を目指す本校卒の教育実習生がそれ。年々増える一方の教師の卵、本年は前、後期合せて約五十名。こちらは希望に溢れるわが同胞である。学校の総力をあげて受け入れているが、この中から果して何人が教職の途をスタートできるか、本県での狭い登龍門のことを思うにつけ、帰巣本能を無情にも断ち切られる後輩が気の毒である。

「母校ですごした二週間、教わる立場にあった者が、教える立場、この違いの他はただなつかしい母校での実習でした。教師も生徒も機械ではなく血の通った生身の人間です。生徒に与える限りない影響力を考えると恐しくなりますがまたそれだからこそ、この上なくすばらしいやりがいのある職業であると考えるのです」ある実習生はこう綴っている。新鮮な感動と意欲に燃える若い青陵健児がここにもいるのである。今春の教員移動で、二名の同窓職員が本校に着任した。こちらは大歓迎したいものである。若き実習生諸君が立派に巣立ち、いつの日か母校に舞い戻る日を待ちたいものである。

54年度 母校の人事移動

★転出

教諭（全日制）
田村規矩夫　高田北城高校
〃　打越賢郎　県史編纂室
〃　飯塚良彦　新潟南高校
〃　曽我浩　市立白山高校
〃　小林政弘　青少年研修センター
〃　山岸達郎　新津高校
〃　松浪清　退職（第一高校）

教諭（通信制）
篠笥真知子　市立沼垂高校
〃　尾関通郎　江南高校
〃　牧野松男　向陽高校
〃　青山文子　市教育委員会
（事務）
高松和丸　新潟養護学校

★転入

教諭
関一英　新発田高校
〃　柳下明也　長岡高校
〃　丸谷承一　高田南城高校
〃　高橋務　三条高校
〃　広野樹　教育センター
〃　和泉誠一　青少年研修センター
〃　大野米一　市立沼垂高校
〃　横瀬功　新潟南高校
〃　占部弘　村松高校

（通信制）
教諭　旭善雄　巻高校
〃　伊藤敏　長岡大手高校
〃　田中栄三郎　新潟商業高校
〃　田中計司　新発田商工高

おめでとう川上さん

――編集部インタビュー――

市役所の市長室を訪れて、多忙の時間を空けていただき、川上市長にインタビュー。

市長、再選おめでとうございます。今後の抱負を一つ。

ありがとうございました。第一期目は夢中であったが、今回、選挙の洗礼をうけて、市民からも今までやってきた事に対し、評価をいただいたので、少し自信をもって、施策を実行したいという意欲が沸いてきております。

今後の新潟をどのようにつくって行かれますか。

先ず、市民が住んでよかったと思える街づくりを実行したい。発展をつづける新潟の都市基盤の整備をはかり、新幹線開通に伴う都市内交通等の充実を含めて、国際的なスケールにマッチしたにいがたづくりです。

それと今一つ、歴史的に商都であったせいか、文化的遺産が少いところでもあるので、生活の中でのゆとりを求める市民の為に、文化的活動を育ててゆきたい。先の話だが、美術館、博物館なども新潟にはありませんので、考えたいですね。又、公民館活動の拠点づくりは一応終ったので、そこで行われた婦人講座などの終了後のグループ活動の芽ばえをのばしてゆきたい。

市民の中からの新しい動き、子供達に本を与えようとの児童文庫などもよろこばしいものです。

市長職のうれしさ、喜びは。

大変多忙で激職だとは思いますが、市民が生き生きしてくる顔をみていると喜びがわいて、一層がんばりたいと思います。年よりや子供、障害者など、弱い存在に手をさしのべてやることを基本にしたいと思っています。

青山同窓会と市長さんのかかわりは。

私は長らく県におりまして、そちらの青山の幹事役やら、又同期45回の幹事など、ずっと世話役をやっていました。今は忙しくて、他の人に代ってもらっていますが。

やはり、同窓会など、目立たないところでの世話役は本当にごくろうさんだと思います。しかしそれが会を支える力だと、感謝しています。今回の選挙でも、同窓の諸氏に何かとご協力、ご支援をいただき、ありがたく感謝しています。

若い同窓も市内に多くなったようですね。何か一言若い人に。

地域をよくするために、連帯する心を育てていってほしいですね。

私のせがれも同窓ですが、今まではあまり関心がなかったが、三十才をすぎて、たまには会に出てみようかといっています。帰属意識がめばえるのは、その辺の年からかもしれませんね。

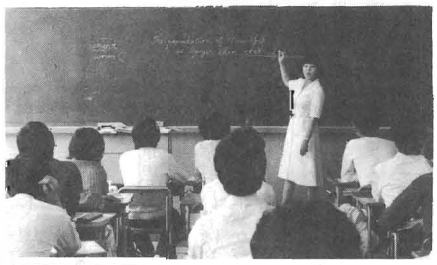
お忙しいところ、いろいろとありがとうございました。私たちの街づくりの為に今後も元気でがんばって下さい。

◇教師の卵◇ 母校で実習活動

昨今、教師の不祥事がマスコミをにぎわしている。一人でも二人でも悪徳教師がいれば、教職界に不信の目が向けられるのはやむを得まい。マンネリ化もとかく話題となる。同窓の若き獅子達を得て現職教師、後輩共に新鮮なひとときをすごした。以下は教育実習の感想の一コマである。

★今まで、常に教わる立場であったものが、急に教える側に変わったわけです。自分では理解していても、それを理解させること、つまり教えることのむずかしさ。また、何よりも教師に要求される人格的なものの重要性を痛感させられました。授業において、何よりも恐ろしいのは、まちがったことを教えてしまうこと以上に、教師の人格が生徒に反映してしまうということでしょう。確かに、教師たるものの第一条件として「まちがったことを教えない」つまり充分な学力は当然要求されるわけですが、しかしながら本質的に最も大切なのは、その教師の持つ人格であるといえるでしょう。同じ内容を二人の教師が教えても、それぞれの持つ人格によって、その授業が全く異ったものになってくることは自明です。本当に恐ろしいことですが、教師の人格は、そのまま生徒にうつし出されてしまうのです。教師も生徒も生身の人間であり、機械ではありません。この生身の人間同志の触れ合いの中で教師の影響力は想像以上に大きなものでした。（以下略）

上智大学・川崎　薫



★職員室での風景で感動した場面をひとつ――TVゲームをやっていた某数学科の先生、授業のベルがなると、それまでのニタニタした顔からサッと一転して、出席簿と教科書、チョーク箱、そして昔と同じ竹の指示棒をこわきにかかえ、サア、いくぞ！というキリッとした顔つきをして、さっそうと出かけていったのです。どの先生もみなそうなのでしょうが、あの顔を見た時、「ああ、いい顔だな、働く男の生き生きした顔だな！」と思い、見ていてとても気持ちのいい思いをしました。（以下略）

青山学院大・阿部知弥

尚、本年度母校に教育実習に来たのは以下の諸兄姉である。

★政　経
滝沢則子（新大法文・法）　51卒
石本真琴（　〃　）　50卒
阿部佳彰（　〃　）　50卒
柴野純一（東北大法）　51卒

★倫　社
佐藤倫子（新大法文・哲）　51卒
小林杏折（　〃　）　51卒
坂内康浩（　〃　）　51卒

★日本史
岡利恵子（新大法文・史）　51卒
藤野満枝（早大文・日本史）　50卒

★世界史
牧野史行（中央・文・西洋史）　50卒
柿島　裕（関学文・史）　50卒

★倫　理
小林志津恵（学芸・教・保体）　51卒

★保　体
西方由美子（上智・外・英）　51卒
美濃玲子（新大法文・文）　51卒
石塚里栄子（　〃　）　51卒
山崎正子（　〃　）　51卒
雨木　泉（　〃　）　50卒
高橋弘子（大阪外・ロシア）　50卒
天尾伸子（青学文・英米）　51卒
阿部和弥（　〃　）　50卒
佐藤友映（早大教・英語英文）　51卒
安島優子（津田・学芸・国際）　51卒
大野理律子（新大・法文・文）　51卒
川崎　薫（上智・外・スペイン）　51卒

★英　語

音楽教室新設なる

―ヤマハグランドピアノ　同窓会より寄贈―

久しくその設置が望まれていた音楽教室が、プール脇に増築された西校舎三階に新設なる。昭和57年に九十周年を迎える母校の歴史上初の音楽専門教室となろう。政財界また文学界、スポーツの世界で活躍した、現に活躍する同窓出身の鬼才は多い。楽界に名を成した青山健児は？　ハタと返答に窮するのである。さあれば「音楽なくして何んぞこの世の楽しみは」の感ある昨今の風潮の中に育つ後輩の中からぜひとも楽界の鬼才が巣立つことを願いたい。この願いの結実が、今回のグランド・ピアノの寄贈とあいなった次第。市内高校でも一、二位の座を競う名器。ヤマハ・グランドピアノCSⅡはかくして新設なった母校教室に収まったのである。腕に自信のある同窓生諸兄姉、ぜひ母校を訪ね名器に触れていただきたいものである。

（上杉記）

あの頃のこと

28回 海潮音

前号の同窓会報で同期生新谷昂平さんが新潟を去られた記事を読んで、あの頃のことがいろいろ思い出された。道路一つへだてた関係かで学区がちがい、私は豊照小学校、彼は港町小学校（？）であった。因みに港町校の校長さんは同期の落田正知さんの父君で、豊照校長は故高藤八男君の長兄斉藤一先生であった。新谷君が名投手であったことは知っていたが、彼よりも令兄の印象が深い。令兄も名投手で第二高等学校に入学、夏休など縁の広い麦藁帽子に袴姿で（当時の高校生の服装）後輩のためにノックをして指導していた。今日の「全国高校野球選手権大会」の初期の頃、北陸地方予選に出場することになった時、主将であった昂平さんの令兄が白山神社に早朝日参して勝利を祈願したということを丹羽先生からきかされた時私は令兄の謙虚な心、主将としての責任の自覚に心うごかされた。

私は昂平さんとは下級時代、組はちがっていたが、よく昼休みなど軟式の試合があると参加させられて一塁を守らされたことがあった。塁に片足をつけて身体を前伸して捕球して走者をアウトにした時「相当やるね」と云われたこと、味方の投手田辺君は私が新谷君の球をピーゴロながら打った時、これも「相当やるね」とびっくりしていた事も思い出す。

当時、朝日新聞かの主催でスポーツのコーチ団が編成され全国を廻り、母校の運動部もその指導をうけたことがあった。その批評が翌日の新聞に出ていて、「このチームはスパイクをはいている（当時は大ていの学校は運動タビだった）とかS・Sは小粒ながらひかっていると書いてあったことも覚えている。当時のS・Sは宮君だったかしら。このコーチは野球ばかりでなく陸上競技全般に亘っていたが、中でも高師の学生であった万能選手斉藤兼吉氏がスタートの指導をするのを身近かに見ていた。

「レディ」「オンユアマーク」「ゲットセット」の英語のかけ声でピストルがなってのスタートの練習だった。医専の大運動会の棹尾をかざる県下中等学校の競走に優勝したことは、湊元君の詳細に亘る文章を会誌でよんだが、私の在学時代は師範には勝てなかった。われらの代表選手の中には小学校からの友、長谷川三郎君もいた。千野完治君は中学の同級生。他校の選手にスパイクされて流血のままゴールに入ったもう一人の長谷川君は堂々たる体軀の持主だった。最終回の中途でチョット片足あげるようにしてラスト・ヘビイをかける癖が目に残っている。全員敗軍に声なく帰校　校庭の片隅の階段の前に立ち、リーダーたちが交交立って選手を激励、「ケイタン」「慨嘆！」の中を血塗のスパイクを手にした雄弁部の大野義正氏の雄弁に私たちは涙した。思えば大正の初期のことでなつかしい思い出である。折しも数日前、母校の校長だった阿部藤策氏から神奈川県に転任するとの御挨拶状を戴いた。母校の隆盛と校友諸兄姉の御多幸を祈ってやまない。

（追伸）七十五才の老人になった私は新潟は第二の故郷であります。しかし「心のふる里」です。若き日のことが思い出されて雑文にまとめました。お役に立てば幸です。

五月十八日

◈新任あいさつ◈

こんにちは、同窓です

59回 広野　樹
26年卒（理科・生物担当）

このたび新潟高等学校勤務を命ぜられ、着任いたしました。

かつて、旧制中学校――新制高等学校と六年間お世話になった母校の門を、このようなかたちで再びくぐることになろうとは夢にも思いませんでした。

当時の校舎はすでにありませんが、校長公舎、プール、雨天体操場の一部などが三十年前をほうふつとさせてくれます。懐しさと後輩たちという気安さから、第一回目の授業では、つい脱線して、暁部隊がいたこと、タコツボを掘ったこと、タコツボに下肥を入れてカボチャやサツマイモを植えたこと、下肥の入ったタコツボのまわりでふざけて、中に落ちた哀れな同級生がいたこと、にまで話が及びました。

長い間、学校現場を離れて、教育センターなどという先生方の研修のお手伝いをする機関にいましたので、授業では、つい、話をむずかしくしてしまって、生徒に叱られています。幸い、かつてクラス担任としてお世話になりました恩師の藤田校長先生、美術の関口先生はじめ、同窓の諸先輩が大勢いらっしゃいますので、先生方のご薫陶をいただいて、一刻も早く感覚をとりもどして、新潟高校の戦力となるように努め、小生をご承知の同窓の皆様から「お前がいるようじゃ、新潟高校も落ちたものだ」などといわれないように奮闘する覚悟であります。

新任あいさつ

ガキ・ニュー

66回 横瀬　功

六十六回生の横瀬です。よろしくお願いいたします。昭和三十三年に本校を卒業して以来、二十一年ぶりです。

当時は、校舎火災直後のため、一年生の時は二部授業でした。水泳の好きな私は、午前か午後のどちらか半日は、専らプールで、泳いだり、友と語り合ったりの、幸せな時代でした。

まだ、ナイロンの現われる前で水泳部員は、赤や白のフンドシを使用し、試合の時でも木綿のぶよぶよの競泳パンツの下に、このフンドシをしめていて、今から思えば奇妙な格好で泳いだものです。

四月に赴任して間もなく、部室のロッカーの中に、当時の私達の練習記録のノートを発見した時は懐しさがこみあげてきました。自己の記録を大幅に更新した時に用いた言葉「ガキ・ニュー」も、ひさびさに目にしました。あだ名で記入されている部員の名前、当時の一流選手の新聞記事の切り抜き、折々の感想や冗談などが、さらし粉の「しみ」にも消えずに残っています。そう言えば、当時は浄化装置などなく、絶えずこのさらし粉のお世話になったものです。

とにかく、水泳ぬきにしては語れない、私の高校時代でした。

現在、学校は校舎、生徒数共に大規模で、皆な勉強熱心です。全体に、昔より大人しいように見えますが、先月の青陵祭で見せた生徒の熱気と陶酔は、昔と変わりません。私も、心を新たに、汗を流しつつ共に学ぶ生活を、送りたいと思っております。

校庭の会津八一の碑が、私は好きです。生徒がそれぞれの「ガキ・ニュー」を記録すべく、私は、「いざ漕ぎ出でよ」の気持で、勤めたいとおもいます。

省エネルギー閑話

68回 北村泰作

昨年の12月に新道路交通法が施行されて、過積載に対する取締りが厳しくなった。その様子はテレビや新聞等で報道されているので諸兄も良く御存知の事と思うが、これは私達のようなトラック製造メーカーに対して2つの異変をもたらした。その一つは過積載から定積載へと正常化する過程で生ずる車両不足により、仮需要が出て来た事。もう一つは車両そのものの軽量化の要求である。仮需要は昨年の暮から始まって、まだその余波が続いているが、メーカーサイドから見ると、ただやたらに忙しいばかりで納期に追われ、お客様に謝ってばかりいる毎日で、実入りの方はサッパリであった。私達にとってはたとえ仮需要であっても有難い話であるが、これが果して時代の要請である省エネルギーに合致しているかというと、どうも方向が違うような気がしてならない。なるほど道路交通法がある以上、法を守る義務があり、また法がなくとも交通安全に気を配ることは社会の当然な義務であるのは言うまでもない。しかし過積載が減って代わりに車の数が増えるのは、本当に交通安全につながり、あるいは省エネルギーに役立つかというと、大いに疑問の残る所であろう。「始めに法律ありき」で、とにかく現行の法律を守れば事足れりとするばかりでなく、社会全体の安全性と効率を考えなければならないような気がする。もう一つの車両軽量化は、トラックの部材を鉄からアルミやプラスチックに替えて軽くして欲しいというものであるが、それでは軽量化による省エネルギーを目指しているかというとさにあらず。これも「始めに法律ありき」で、法規のワク内で一kgでも余計に荷物を積みたいというもので、省エネとは少々発想が異るようである。余談だが、早いもので小生が青山を出てからもう19年が過ぎてしまった。当時の青山はまさに「始めに受験ありき」で、全校がそのような方向に動いていた記憶が残っている。最近はどんな様子かなと思っていたら、先日あるテレビ番組に新潟高校代表が出て来て、「最近はスポーツの面でも県下で一番です」と自慢したのを見て何となく安心した。こればかりは省エネなぞと言わず大いに若いエネルギーを発揮できる青山であって欲しいと思う。

カツドウヤバカ奮戦記

65回　関　英一郎

俗に〝役者バカ〟などと申しますが、己れの作る劇映画を一人でも多くのお客さんに観て戴き度いと貧乏も物かは駆けずり回っている私など、差し詰め〝カツドウ屋バカ〟とでも申せましょうか。

私が入学しましたのは、旧校舎が全焼の憂き目に逢ったあの昭和二十九年ですが、今にして思えばその余燼燻る中での「新入生歓迎会」で、演劇部の諸先輩が演じて観せてくれた実力を抑えたオシバイこそ、この私めをして、〝ひょっとすると、この程度ならこの俺にも出来るのでは？〟という錯覚の下にその扉を叩かしめ、軈ては、役者苛め（？）の楽しさを覚えることによって、遂にはそれを生業とするまでに至らしめた大いなる〝導火線〟ではありました。

二十四才で東映の契約助監督となりましてからもうこの道十七年になりますが、監督としては未だ八～九年のキャリアしかなく、しかも劇映画としては現在取り組んでいる「赤い牡牛」が一本目ですので、世間的に申せば、まだまだ〝新人〟に過ぎません。

この「赤い牡牛」は、山梨の片田舎に博奕打ちの子として生まれた主人公が、親の血を引いたかの様に、自らも賭博の世界に足を踏み入れて人生の大半を無頼の徒として過ごすものの、持って生まれた正義感と周囲の好影響とが相俟って五十の坂を越してから物の見事に立ち直り、何故にか、更に世直し集団へと飛び込んで多くの人望を集める様になって行く様を描く全二時間半の長篇ドラマで、東宝映画「狐と狸」の原作者としても知られる熊王徳平氏の「大義徳栄伝」を私が脚色して、八年越しに準備して来ました作品です。

主演は元劇団「仲間」の辻萬長（俳優座養成所十四期生）――写真――で、元松竹の早瀬久美子――写真――を相手役に、以下北林谷栄、永井智雄、左右田一平、蟹江敬三、松坂慶子（友情出演）等等、総勢百人以上の演技陣と三千人のエキストラが出演します。

八月にクランク・インしてから凡そ半年余りをかけて撮影しますので、全国封切りは来春四月になりますが、約二億円にも及ぶ製作費の一助とすべく、前売り券付きのシナリオを一部千円で只今発売中で、同窓会の諸兄姉よりご協力戴きます分につきましては、その中の一割を会の運営費として提供させて戴くことになって居りますので、何分にも宜しくご配慮の程をお願い申し上げます。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

応援歌のルーツ

50回　上村光司

一月二十二日発行の青山同窓会報に「青山」一三五号から転載したものとして、応援歌のルーツについて書かれておりました。その中で「E」鳴呼青陵に正気あり……が出所手掛りなしとありました。既に他から声がかかっているかと思いますが、私の承知していることをご参考に供します。

これは旧制第一高等学校端艇（ボート）部応援歌をとったものです。旧制高校の寮歌をはじめ応援歌、部歌などは、ほとんど生徒の作詞、作曲によるものでしたが、これも大正九年、今井常一作詞、矢野一郎原曲となっております。

もとの歌詞は

一、鳴呼向陵に正気あり
　青春の子が熱血の
　双手にかざす紅の
　護国旗の色君見ずや
　我が当年の丈夫が
　鉄腕撫して立つところ
　墨江の空、連勝の
　覇業の光栄に輝きぬ

向ケ岡からとった〝向陵〟を、青山からとった〝青陵〟に置きかえ、隈田川の〝墨江〟を信濃川の〝信江〟とした、まことに率直な借用ぶりでした。

この元歌は四番までありますが新中の応援歌では二番の

　千戈一度おさまりて
　平和よ暫し春の夢

から四番の三行以下につないで

　信江五百里惨として
　乾坤どよむ鬨の声
　鳴呼戦はむ勝軍
　光栄の歴史を飾るべく
　渾身の血は躍るなり
　戦はんかな友よいざ

とし、うまく一番にまとめていたはずです。このうち〝信江五百里〟は元歌では〝墨江十里〟でありまして、隈田川が十里なら信濃川は五百里だと、プライドを見せたわけでしょう。

なお寮歌の類は、原曲の譜面どおりに歌われることは少なく、しかも長調の曲が年を経るうちに短調ふうに変身している例が多いのです。この歌も同様で、新中で私どもが歌った昭和十三年から十八年のころは、赤書きのようにしていたと思います。記憶がおぼろになりましたが――。以上出典は旧制第一高等学校寮歌集からです。

（五十回・上村光司）

卒業20年 67回生 東京同期会

67回　大野隆治

本年五月十二日、土曜午後六時より、東京新宿ソシアルビル「みちのく」において、昭和三十四年卒業の六十七回生同期会を行ないました。今回は十二名の出席でした。これで五回ほど、東京ならびに近県に住む同期会が開かれていますが、いつもは、二十名ほどの出席があります。

高校卒業二十年、四十路までにあといくつ、仕事面においても、重要な立場を迎えているのでしょう。出張、会議などで出席出来ないとか出席予定が、前日までの徹夜続きなどで自宅より涙の電話。彼〝片桐靖忠君〟は下痢により腹に力が入らず悲しき声。彼は、東京での名簿作成には、熱心にやっていただきました。又〝桂弘（旧姓小池）君〟は静岡県堂ケ島より仕事をぬけられず電話。

出席者の皆さん多士才才（本当は済済・字引を見て知りました）バラエティーにとむ、仕事をしている人達です。〝松本陸雄君〟はドイツのベンツ自動車工場を研修帰りにフランスで一週間、色よく遊び上司に大目玉。彼は話していました、日本企業の二重構造（下請、臨時工）よりヨーロッパにおける大企業の下級工員、他の国からのでかせぎの方がもっときびしく差別されているそうです。

〝大塚麟一君〟ロッテ歌のアルバム、テレビで見ている人もたくさんいられると思いますが、その舞台装置をやっているデザイナー。

〝北川寛君〟常に生命の誕生に立ち向うのが仕事だと云う、額の禿げたお医者さん。それをたすける薬屋さん。〝屋代順治郎君〟今ごろは外国で薬の特許交渉を、新潟なまりの英会話でやっていると思います。

一人が大声で、お医者金もうけ薬屋の薬づけ、この問題はどうなっているんだ、と云いました。

〝大野隆治〟この人、今はやりの外食産業と云われるピアレストランに勤め、毎日毎日まぐろの色つや、生ビールの泡をいかにうまくつけて、店の利益につなげるかと考えては、お酒をただで飲んでいるそうです。

又、かたい仕事の方では〝三堀浩君〟苦節十年、地方から東京本店にもどり、ひと月九億円もの公社債を集める銀行屋さん。〝登坂誠吾君〟海を渡る橋の、設計コンピューター計算をなさる方。〝堂垣内引一君〟首都高速道路の設計をする人。彼の公団から都知事が出たので、仕事がふえるぞ、との声がありました。それらの話を静かに、笑い、うなづきながら聞く〝関口光治郎君〟コンピューターを売るセールスエンジニア。「鉄は国なり」の鉄のセールスマン〝高橋三郎君〟彼は二十年前と同じヘアースタイルです。私のとなりで豪快に盃を干す〝玉木明君〟彼はルポライターです。過日の三菱銀行強盗事件では、耳をそぎ落された方の病室に、忍者もどきの白衣姿で侵入し、独占インタビューをしたそうです。

今回の出席者の中で紅一点〝石田ミヨ子（旧姓石原さん）〟彼女は、東京江戸川区民から選ばれた議員です。美しさを感じました。しかし、党派的な話しでは、論法もはげしく、理論武装も大変なものでした。

少人数ではありましたが、話のはずんだ楽しい一夜の会合でした。

●最近の大学入試の結果から●

大学名	52年	53年	54年
北海道大	6	11	9
東北大	38	29	37
東京大	8	9	8
東京工業大	2	4	2
一橋大	6	3	7
新潟大	97	96	165
京都大	4	8	6
青山学院大	18	30	18
学習院大	17	14	10
慶応大	47	37	45
芝工大	8	18	17
上智大	12	12	12
中央大	45	60	54
東京理科大	44	54	50
日本大	34	50	21
法政大	26	31	19
明治大	54	35	44
立教大	11	12	11
早稲田大	65	71	63
同志社大	7	7	3
立命館大	7	8	11

（以下略）

Uターン変わり種（その3）
瓢亭の若だんな

73回　川崎民雄君（旧性志賀）

新潟に、うなぎのうまい処あり、白山浦の瓢亭。ここの若だんなが同窓であるという。そこで編集部はある昼さがり訪ねて見た。

丁度昼どきで、千客万来、仲々彼の手が空かない。再度訪れて、やっと彼をつかまえた。そこで一問一答。

彼は昭和40年に県高を卒業。73回生である。担任はラグビーの関根先生。それから法政の一文、日本文学専攻に進学。時あたかも、学生運動が谷間から急激に盛り上る70年安保の時代。高校ではおとなしくて、専ら試験勉強の名の下に、夜遅くまで、実は小説ばかり読んでいたのだという彼も、このはげしい学生運動の中に巻き込まれ、もえてゆく。かなりはげしくやったらしい。佐世保や成田での学生の動きを覚えておられる諸氏もあるだろうが、彼はこの桧舞台に出る前に、当局から予防検束の名のもとに引っ張られ、長らくおくら入り。やっと釈放になった時は、佐世保騒ぎが終った後であった。無罪であった。いろいろの体験の中から感ずるところあり、一人っきりの世界に閉じ込もって、書いたり、考えたりの生活を約一年間。

23才で一念発起、日本料理の道に飛び込んだ彼は、瓢亭の主人の紹介状をもって東京の吉兆（今回行われた東京サミットの公式行事に初めて日本料理が出されたが、この吉兆からであった）に住み込みで弟子入り、以来八年間、31才まで入ったときからずっと終始最年長者であった。たまたまこのご主人、湯木昭二朗氏（旧姓川崎）も52回の青山健児である。そんなことから、かわいがられ、盆、暮れにはお店のお客様、政財界の要人にごあいさつに伺ったりもし、学生時代と一転した体験、店の内、外と休む間もなく働いた。側から見るとそんなによく働いてと、難儀げに見えるらしいが、楽天的な本人は意に介さず、東京での修業も楽しかったと、今回想する。

53年に瓢亭の長女のところに婿入りし、旧姓の志賀から川崎となり、同時に新潟に帰って来た。今では、親父さんと並んで、忙しい毎日である。

彼が帰って来たことを聞きつけ店へ立ち寄る同期生も最近は多いとか。又、大学時代の文学仲間がはるばる新潟まで訪ねてくれることもある。うれしいことだという。そんな語らいの時に、又、書いてみようと思ったりするという。高校時代に「青陵」の編集委員として、70周年の記念号を作った、文学への血が、もえるらしい。若い同窓のUターン組が立ち寄ったり忙しいながら、毎日を楽しんでいる様子でもある。

帰り際に声あり、43回の俺も忘れるなやと、瓢亭のご主人、川崎晴太朗氏であった。

〝街〟づくり

73回　小畴弘一

新潟の街並はずい分変りました。小さい頃堀に沿ってぶらぶらと幼稚園、小学校に通っていましたが堀は埋められ、橋は無くなり、そして緑も無くなったコンクリート舗装の上を膨大な量の車が往来しています。我々が考えるふる・さ・としての「新潟らしさ」は、心の中に、それもだんだん隅っこのほうに追いやられたものだけになってしまったのでしょうか。「新潟らしさ」って一体なんなのでしょうか。子供が大きくなって抱く、ふるさと新潟のイメージが、バスセンターや地下街に変っていたらなんとさびしいことではありませんか。

私は今、ある町内で街づくりのお手伝いをしています。歩道にきれいなタイルを貼り、店先を飾りアーケードをかけ直すことも必要でしょうが、私はそれだけが街づくりであるとは考えていません。街づくりとは多分に心の問題ではないでしょうか。子や孫に誇りをもって伝えていける街にしたい。表面に表われる様々なものは、そういったみんなの願いを統一させるための道具にすぎないと思うのです。同じアーケードをかけるにも、なぜそれがそのような形で必要なのかという真剣な話し合いと意思の統一があったかなかったかで、でき上ったアーケードに対する愛着心はまるで異ったものになると思います。次の世代に自信をもって渡すことのできる街は、まず我々が真底から愛着のもてるものでなければならないはずです。形や色や材料だけでなく、人と人とのつき合い方、人情、全てひっくるめた街づくりをしたいというのが私の基本的な考え方です。もちろんそれは一つ一つの町内だけではなく大きく新潟市全体を考えた場合にも当てはまることだと思います。でき上ったものをとやかく言うのではなくでき上る過程に首をつっこむことがまず大切だと思います。

気の遠くなるようなテーマです。しかし私は新潟が好きです。自分が好きな新潟をなんとか子供達に残したいという祈りを込めた気持で取り組んでいます。

昭和54年度青山同窓会費納入者

（54年1月より3月までに納入のもの）

会費納入のお願い　1口 1,000円
できるだけ1人2口でおねがいします。

納入先　新年会・総会の会場
又は母校同窓会事務局へ

21回
山口吉次郎
22回
石黒忠義
中川直一
28回
阿部藤策
村田汎愛
30回
鷲田徳雄
31回
佐藤静子
建部一
32回
斉藤英二郎
丸山岩治
樋口昇
33回
永井行蔵
川上英三郎
春木五郎
34回
真野孝亮

35回
天池貞二
石本省一吾
吉岡健一郎
石本謙三
36回
入山芳雄
関昇
藤田九三郎
37回
井村正樹
田中郁郎
38回
小林三郎
三浦良介
39回
阿部助哉
中村健
小林正人
鎌田輝虎
40回
池田政男
鈴木篤保穂
田宮篤二郎

南学正時
平田甚
41回
永井昇平
42回
阿部貞一
小野隆一
塚野一郎
樋口正
43回
加賀田達二
44回
佐々木勧麓
永井康吉
中野彪
鈴木繁男
45回
小野寺豊
河辺邦昌
丸山泰雄
坂井達男
小島平弥
稲葉敏郎

46回
遠藤義男
遠藤朔一
窪田秀雄
小林信夫
下勇
椿一郎
塚本喜一
富井正男
宮尾益英
峯木夫
押木範夫
中田紳一郎
樋浦幸喜
樋口通
馬場吉衛
本間徹
高橋敬吉
新田公淳
横山隆二
47回
畑喜一
48回

佐藤素一
水戸正郎
北村英一
大谷一男
丸山弘志
広川浩一
50回
高橋清
長田璋甫
小田正治
小林誠一
瀬谷明
山川久
神田正弥
52回
笠井謙
宮尾益克
小沢興栄
斉藤稔
沢田義郎
53回
玉木将二郎

大橋定雄
石本林三
56回
阿部弘昭
野崎諒
近藤源也
岡田弘夫
残熊謙一
田中陽一
山口和郎
池田兆策
伏見康
堀藤四郎
吉田正光
荒木寛雄
花井諦二
58回
生田竜夫
早山康之
59回
市川鉄夫
佐藤進

藤間学
菊地晴彦
吉川篤
大島洋一
倉品克明
茂泉喜彦
渡辺満
栗田順之
小林重行
60回
居城慶一
市村檀
雉波正彦
水野義雄
秦篤夫
星野昇
成田禎作
本田是
61回
阿部徳治郎
丸山通夫
久須美博
浅間道子

大矢英一
渡辺和義
関根理
小林孝司
62回
石田勇
井上泰二郎
上原明
立川国臣
木村亮
63回
長谷川正
64回
牛谷光隆
65回
白井三雄
安宅厚
67回
松井建吾
吉井彰子
中野仁
68回
斉藤忠雄

浜田庄司
69回
岡田尚子
70回
池野隆彦
大塚哲夫
風間秋利
杉本正義
等々力弘康
71回
高橋紘生
中野久

通信制
102名

星霜ふりて五十年

（三六会）

初夏の五月二六日（土）午後五時より信江河畔の料亭で、卒業満五十年の記念三六会を開催した。

来賓として富山に御在住の中川忠作先生、母校の事務職員だった渡部脩治先生、物故者遺族代表として青山同窓会事務局の岩田はすえさんをお招きしたが、中川先生は昨年暮、胃かいようの手術後で経過は良好だが長旅は無理との事でご欠席であった。

昭和四年卒業時は一九六名だった会員も、物故者六九名、生死・住所不明二六名で、五〇年後の今日一〇一名となった。

当日の参会者は来賓、県外勢を含め三十六名であった。

やがて五時間近、君知事も来場。開会の挨拶にたった知事は一月入院、胃かいようの手術をされたとは思えぬ元気ぶりで、いろいろデマがとんだが、このとおり元気で今後とも県政を担当すると力強く決意を表明された。

ついで物故会員の冥福を祈って黙祷をささげる。

又、今日の式典を祝して、石橋植木、丸岡、藤田師範による祝儀の謡の飛入り披露があり、来賓渡部脩治さんの祝辞、加賀田県議の挨拶、遠来の県外諸氏より自己紹介をかねて一言ずつ所感発表があった後、与野市の久保文苗君の音頭で一同乾盃。

祝宴に入るや、各人それぞれ席を離れて各所にたむろし、五〇年ぶりの旧交をあたためる者あり、酒盃をかたむけ時折各所で爆笑があがる。

のむはのむは六十七～八才とは思えぬ痛飲ぶりに幹事はただはらはら。

折もよし、サウジへコンサルタントとして行っていた与野市の関昇君、サウジの民族衣裳で登場、ヤンヤの喝采をあびる。

病後を心配した幹事をよそに君知事は愉快に酒一本やり。

やがて八時、田巻育英セミナー校長の指揮で校歌斉唱、植木市松応援団長の先導で応援歌の数々。

最後に仙台の佐藤信君の発声で万才を三唱し閉会宣言のあと名残を惜しみつつ、再会を期し散会した。

あとは三々五々どこへ散ったやら。

（樋口記）

青山三九会

―昭和7年―（第39回卒）

梅雨晴れの六月十六日、午后六時より川前の小甚で久しぶりの會合。

此度は鷲尾吉光先生の御出席をお願いした。先生は旧姓土屋（セイバン）昭和六年四月に当時の新中に御赴任され、我々とは僅か一年間の短かい期間だったが日体出身の中川巨漢先生の後輩として、その鉄筋のような体で、体育専門によく我々生徒を鍛え抜かれた。体操に、剣道に全く素晴しい体格の先生だった。さすがに往年の猛先生も七十才を越えられて視力が少し弱られた御様子だったが元気よく一同の盃を受けられた。

セイバン先生の御健祥を切に祈ります。

旧友一同はいづれも初志の年令ながら盃を重ねるうちに元気旺溢、昭和五十七年の来るべき卒業五十周年の行事予定など語り合い、旧校歌を唱いつつ散會した。

当日の出席者は次の通り。

阿部尚道、小林芳輔、山崎弄吉、阿部助哉、木村豊雄、吉田二郎、皆川登良夫、小飯塚元、藤巻行也、福井敏雄、石高信司、坂井喬二郎、涌井十一郎、味方恭一、福山健

（福山記）

白髪・光頭あれど肌美しく若々しい

（44回）

六月二日（土）午後三時四十分――青葉若葉に彩られ、青春そのものを感じさせるような雄大な山山に囲まれた湯沢駅ホームに降り立つ。

初夏の心地よい風を肌にうけて苗場荘へと歩を運ぶ。定刻近くなると、東京勢もぞくぞく訪れ、

〝よう、しばらく!〟

〝やあ、君は誰だっけ?〟

〝変ったなあ!!〟〝昔と同じじゃないか〟

〝あれは誰だっけ?〟

あちこちで賑やかにこんな声もささやかれ、卒業後始めて、四十年振りというのもあり、いろいろな挨拶会話が楽しそうである。

今年は還暦記念として東京からも多勢参加出来るようにと、中間の湯沢にしたのであるが、折悪しく旧制新潟高校の六十周年記念同窓会とぶつかり、断腸の思いで欠席された方も多かったと聞き、非常に残念であった。

定刻六時三十分――それでもはるばる東京より七名、新潟より十四名の出席があり、一同座に着く。

田中幹事長の力強い開会の挨拶につづき、水野東京幹事長の乾杯で宴に入る。一人一人の四十二年歩んで来た人生紹介から、意外なものを発見して驚愕したり、感激したり、宴は笑いと歓声でよみがえった青春に酔う愉快なひとときを過ごす。

終了後も残ったものを部屋へ運び小宴会続行――思い思いの話がはずむ。

突如として一人の男立ち上り、手を上げ、腰ふり、応援歌を歌い出す。みれば旧姓田代君。中学時代果し得なかった応援団長をここで――次から次へと、こんな応援歌があったかと思う位――全く頭がいいと感心する。ふと気がつくと片隅で笑いがおこる。水野君の戦争体験を語るソフトなチャーミングな声と話術が、みんなを魅了している。

共学だったら!! 今ここに同期の奥様方が話題提供してくれたら一層明るい雰囲気に包まれたのではないか?などひらめいたのは私だけだったろうか。夫々の語らいが時のたつのも忘れさせ、いつのまにか明日になっていた。いや今日になっていたのだ。みればさっきまで一人ではしゃいでいた片桐（田代）君が大の字で大いびき、そしてやがていびきのコンクールが始まり、苗場荘の夜は静かに更けてゆく。

明けて六月三日――我等の前途を祝福するかの如く、初夏の陽ざしもまぶしく美しい。朝食後は次の再会を約し、〝七月に香港で会おう〟などの身近かな言葉もとび出し、三々五々散会した。また来年もどうぞ――。

出席者、東京より、水野、斉藤、明間、小山、平原、倉、鳥羽、新潟より、田中、倉田、伊藤、小越、片桐（田代）、高橋、峯木、村山、後藤（山口）、山崎、宮川、如沢、佐々木、小池、合計21名。

（小池寿哉・記）

台湾に10年

60回　向井和夫

私は①一九六九年六月台湾出張。②一九七一年十月環球友聯電機工業（ラジオ）工場設立。③一九七三年十月環球友聯電機新築工場。（総経理職）④一九七五年十二月フォーモサエレクトロニックス（電子製品総合商社）設立（総経理職）し、高雄加工区内のブームエレクトロニックス（工場）と業務提携。⑤一九七八年四月フイリッピンマニラ市内のユナイテッドエレクトロニクス社と業務提携（副社長職）過去五年間の年間輸出額は約一、二〇〇～一、五〇〇万USドルで輸出商品の主力は、2ワットクラスのカートリッジ付ステレオミュージックセンター及び附属スピーカーBOXです。

現在の構成人員は、フォーモサ台北（十名）、環球電機台北（四五〇名）、ブーム高雄（四〇〇名）ユナイテッドマニラ（百二十名）です。現在特に力を入れているのはマニラのユナイテッド工場で今後の成長を期待して居ります。

私の責任はフォーモサ台北の全体責任及び、環球、ブーム、マニラ工場の海外（主にアメリカ、カナダが90%）向セールス及び商品企画で、年間二回のアメリカ、カナダと月一回のマニラ出張で頑張っております。当分は日本には帰れそうもありませんので、ぜひ、台湾に来たらご連絡下さい。家族は男3名、（内長男は東京のICU高校二年生、次男、三男は台北の日本人学校）及び女房です。

「住所」台北市松江路85巷3号

《編集後記》

ごらんのとおり今回は六頁となりました。別に省エネルギーに協力というわけではなく、少し原稿の量が少なかったということ。次号へ向けてのご投稿をお待ちしています。